

大分市公告第 6 5 7 号

次のとおり一般競争入札を行うので、地方自治法施行令（昭和 2 2 年政令第 1 6 号）第 1 6 7 条の 6 第 1 項及び大分市契約事務規則（昭和 3 9 年規則第 1 2 号）第 2 5 条の規定に基づき公告する。

令和 7 年 1 1 月 6 日

大分市長 足立 信也

本案件は、電子入札システムを利用して行う電子入札対象案件である。

電子入札の取扱いは、この公告に定めるもののほか大分市電子入札運用基準による。

1 競争入札に付する事項

(1)工 事 名	市内 A 2 地区（市道 上田南太平寺線外）道路修繕（その 2）工事	
(2)工 事 場 所	大分市南太平寺三丁目外	
(3)工 期	○	契約締結日の翌日から令和 8 年 3 月 1 2 日まで
	—	
	—	
(4)工 事 概 要	排水構造物修繕工 一式	
(5)予 定 価 格	¥ 4, 4 2 8, 6 0 0. —（消費税及び地方消費税を含む。）	
	¥ 4, 0 2 6, 0 0 0. —（消費税及び地方消費税を除く。）	
なお、本工事は最低制限価格制度を適用する。（【別紙 2】を参照）		
(6)支 払 条 件	前 払 金	有
	中 間 前 払 金	有
	部 分 払	なし
(7)備 考		

2 競争参加資格

次に掲げる条件をすべて満たす者に限り入札参加を認める。

(1) 共通事項

① 入 札 参 加 者 の 資 格	地方自治法施行令第 1 6 7 条の 4 の規定に該当しない者であること。
② 経 営 事 項 審 査	公告日から開札予定日の前日までの間のいずれの日においても有効な経営事項審査（建設業法（昭和 2 4 年法律第 1 0 0 号）第 2 7 条の 2 3 の規定による審査をいう。）の結果の通知を受けていること。
③ 指 名 停 止 の 有 無	公告日から開札予定日の前日までの間のいずれの日においても「大分市建設工事等に係る指名停止等の措置に関する要領」（平成 1 2 年大分市告示第 4 7 7 号。以下「指名停止要領」という。）に基づく指名停止期間中でないこと。
④ 暴 力 団 排 除	公告日から開札予定日の前日までの間のいずれの日においても「大分市が行う契約からの暴力団排除に関する措置要綱」（平成 2 4 年大分市告示第 3 7 7 号。以下「排除措置

	要綱」という。)に基づく排除措置期間中でないこと。
⑤ 不渡り等の有無	開札予定日以前3月以内に、手形交換所で手形若しくは小切手の不渡りを出した事実又は銀行若しくは主要取引先からの取引停止等を受けた事実がある者でないこと。
⑥ 倒産手続等の有無	次のいずれにも該当しない者であること。(ただし、会社更生法の規定に基づく更生手続開始の申立て又は民事再生法の規定に基づく再生手続開始の申立てがなされた者であって、更生計画の認可が決定し、又は再生計画の認可の決定が確定した者を除く。) <p>ア.破産法(平成16年法律第75号)第18条若しくは第19条の規定に基づく破産手続開始の申立てがなされている者</p> <p>イ.会社更生法(平成14年法律第154号)第17条の規定に基づく更生手続開始の申立てがなされている者</p> <p>ウ.民事再生法(平成11年法律第225号)第21条の規定に基づく再生手続開始の申立てがなされている者</p>
⑦ 建設業の許可	一般建設業又は特定建設業の許可を有していること。(建設業法第3条第1項第1号又は第2号)
⑧ 技術者の配置	建設業法第26条に規定される本案件の業種における技術者を当該工事に配置できること。ただし、余裕期間が設定されている場合は、契約締結日から工事の始期の前日までの余裕期間は、当該技術者の配置を要しない。
⑨ 電子登録	大分市への電子入札システムの利用者登録をしている者であること。

(2) 本案件に関する事項 (表中、○印を付したものを要件とする)

区 分	適用	要 件
① 業 種	○	<b>土木一式工事</b> (公告日において、「大分市建設工事競争入札参加資格審査要綱」(平成17年大分市告示第1616号)により、この業種の入札参加資格の認定を受けている者であること。)
② 等 級	○	<b>令和7年度</b> において、①業種の <b>D等級</b> に格付けされている者であること。
③ 指名希望順位	○	<b>令和7年度</b> において、①業種の <b>指名希望順位を第1位又は第2位</b> としている者であること。
④ 指名選定エリア	○	開札予定日において、大分市内に建設業法に基づく主たる営業所(本店)が、「大分市が発注する建設工事の指名競争入札参加者選定に関する要領」(平成17年4月1日施行)第2項に規定する <b>第I指名選定エリア</b> の区域内にあること。 (【別紙3】を参照)
⑤ 平均完成工事高	—	
⑥ 本店所在地	○	建設業法に基づく主たる営業所(本店)が大分市内にあること。
⑦ 女性・若手の技術者	—	
⑧ 専任で配置する技術者	—	
⑨ 技術者の兼務	○	「大分市における建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者及び同法第26条の5の規定の適用を受ける営業所技術者等の取扱いについて」を参照
⑩ その他事項	—	

3 入札参加制限等 (本案件は、下記表のうち、○印を付した制限を適用する)

区分	適用	備考
(1)手持工事による入札参加制限	—	
(2)同日開札における落札制限	○	(【別紙6】を参照)

4 入札手続等 (表中の期間には、土・日曜日及び祝日等の休日を含まない)

(1)担当課	大分市 総務部 契約監理課 〒870-8504 大分市荷揚町2番31号 (電話)097-537-5714			
(2)本公告内容の交付期間、場所及び交付方法	① 交付期間	令和7年11月6日(木)から 令和7年11月19日(水)午後5時まで		
	② 交付場所	(1)担当課に同じ。		
	③ 交付方法	直接交付によるほか、インターネットでも行う。 (大分県共同利用型 入札情報サービスシステム <a href="https://www.t-elis.pref.oita.lg.jp/DENTYO/GPPI_MENU">https://www.t-elis.pref.oita.lg.jp/DENTYO/GPPI_MENU</a> )		
(3)設計図書等の閲覧期間及び閲覧方法	① 閲覧期間	(2)の①に同じ。		
	② 閲覧方法	電子閲覧に供する。 電子入札システム上の「設計図書等閲覧」の場所に掲示する添付ファイルを参照。システム上の障害等により、電子データをダウンロードできない場合は、速やかに未使用のCD-Rを契約監理課に持参して提出すること。		
(4)設計図書等の質疑応答	① 質問	提出方法	書面を持参	
		提出期間	令和7年11月7日(金)から 令和7年11月14日(金)まで (午前8時30分から午後5時まで)	
		提出場所	(1)担当課に同じ。	
	② 回答の閲覧	閲覧期間	質問があった翌日から起算して2日後までに開始し、入札書受付締切日までの午前8時30分から午後5時まで	
		閲覧方法	電子入札システムによる。 (※電子入札システムにより閲覧できない場合は、(1)担当課の場所において閲覧に供する。)	
(5)競争入札参加資格確認申請書及び競争参加資格確認資料(以下「申請書等」という。)の提出	① 提出期間	令和7年11月6日(木)から 令和7年11月17日(月)午後5時まで		
	② 提出方法	原則として電子入札システムによる。 なお、添付する書類の作成アプリケーション及びファイル形式は、次のとおりとする。 ※ファイルの保存時に損なわれる機能は作成時に利用しないこと。		
			アプリケーション	ファイル形式
		ア	Microsoft Word	・Word文書(.docx) ・Word97-2003文書(.doc)

	イ	Microsoft Excel	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excelブック (.xlsx)</li> <li>・Excel97-2003ブック (.xls)</li> </ul>	
	ウ	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDF (.pdf)</li> <li>・テキストファイル (.txt)</li> </ul>	
	( )は拡張子			
	③ 提出様式 (○を付した様式 を作成・提出す ること)	○	競争入札参加資格確認申請書	様式第1号(その1)
		○	競争参加資格状況表	様式第2号(その1)
—		履行実績	様式第3号(その1)	
—		配置予定技術者の資格・建設工事等 経験	様式第4号(その1)	
(6) 現場説明会	実施しない。			
(7) 入札保証金	免除する。			
(8) 入札及び積算 内訳書の提出	① 提出期間	<b>令和7年11月18日(火) 午前9時から</b> <b>令和7年11月19日(水) 午後5時まで</b>		
	② 積算内訳書の作成	<p>書式は、作成例を参考に設計図書にある各項目(土木積算の場合は工事数量総括表の費目・工種・種別・細目、建築積算の場合は内訳の名称)に対応する数量、単位及び金額を明記すること。</p> <p>積算内訳書は入札書に添付すること。(ただし、契約担当者が特に認めるときは、この限りではない。)</p> <p>ファイル形式は(5)の②と同じ。</p>		
	③ 入札方法	原則として電子入札システムによる。		
	④ 入札回数	原則として1回とする。		
	⑤ その他	<p>落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額)をもって落札価格とする。入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。</p>		
(9) 開 札	① 開札予定日時	<b>令和7年11月21日(金) 午前9時30分</b>		
	② 開札場所	大分市荷揚町2番31号 大分市役所9階 第1入札室		
	③ 開札の立会	入札参加者のうち希望者は、開札に立ち会うことができる。(「大分市電子入札立会要領」を参照)		
	④ 落札者決定の保留	開札後は、最低価格入札者の入札額及び業者名を公表の上、落札者の決定を保留し開札を終了する。		
(10) 事後審査及び 入札結果の公表	① 事後審査	<p>開札後に、予定価格の制限の範囲内で最低制限価格以上の価格のうち最低の価格をもって有効な入札を行った者の申請書等について審査する。</p> <p>ア 最低価格入札者が競争参加資格を満たしている場合は、最低価格入札者を落札者とする。</p> <p>イ 最低価格入札者が競争参加資格を満たしていない場合は、予定価格の制限の範囲内の最低制限価格以上をもって申込みをした他の者のうち、最低の価格をもって申込みをした者(以下「次順位者」という。)の競争参加資格を確認した上で、次順位者を落札</p>		

		者とする。 なお、次順位者が競争参加資格を満たしていない場合は、以降同様の手続を行う。
	② 入札の無効	⑩の①事後審査で確認した競争参加資格を満たしていない者が行った入札は <b>無効</b> とし、その結果を通知する。
	③ 入札結果の公表	⑩の①事後審査により落札者を決定した場合は、直ちに入札参加者に対し通知を行うとともに、入札結果を公表する。
(11) 入札参加者の公表	この一般競争入札に参加しようとした者の名称並びにその者のうち当該入札に参加させなかった者の名称及びその理由を競争入札参加資格確認後に公表する。	

## 5 競争参加資格がないと認められた者に対する理由の説明 (表中の期間には、土・日曜日及び祝日等の休日を含まない)

(1) 説明の請求	競争参加資格がないと認められた者は、4の⑩の②入札の無効の通知日の翌日から起算して7日以内に、書面（様式は自由）を持参して、契約担当者に対し競争参加資格がないと認められた理由についての説明を求められることができるものとする。 なお、郵送又は電送による提出は受け付けない。 また、書面の提出場所は4の(1)担当課とする。
(2) 回答	(1)の書面を提出した者に対しては、書面の提出があった日の翌日から起算して8日以内に書面により回答する。

## 6 入札の無効

<p>次の各号の一に該当する入札は<b>無効</b>とし、無効の入札を行った者を落札者としていた場合は落札決定を取り消す。</p> <p>(1) 入札者としての資格のない者のした入札</p> <p>(2) 競争に際し、不当に価格をせり上げ、又は引き下げる目的で他人と連合したと認められる者のした入札</p> <p>(3) 同一の入札について2以上の入札をした者の入札</p> <p>(4) 同一の入札について2以上の入札者の代理人となった者のした入札</p> <p>(5) 入札金額を訂正した入札</p> <p>(6) 予定価格を上回る入札</p> <p>(7) 入札金額、住所、氏名、押印その他入札要件を認定しがたい入札</p> <p>(8) 郵送による入札</p> <p>(9) 電子入札にあっては、市長が指定する認証方法を用いない入札</p> <p>(10) 電子入札にあっては、契約担当者が使用する電子計算機に到着した入札金額等の電磁的記録が書き換えられた入札</p> <p>(11) 公告に示した競争参加資格のない者のした入札</p> <p>(12) 申請書等を提出しなかった者のした入札</p> <p>(13) 申請書等に虚偽の記載をした者のした入札 (※申請書等に虚偽の記載をした場合、指名停止要領に基づく指名停止の対象となることがある。)</p> <p>(14) 入札参加制限を受ける者のした入札</p> <p>(15) 提出期限までに積算内訳書（入札価格と一致する工事価格計又は業務価格計の総合計を記載したものに限る。）を提出しなかった者のした入札</p> <p>(16) 積算内訳書の工事価格計（消費税等相当額を除く。）又は業務価格計（消費税等相当額を除く。）が、入札価格と一致していない者のした入札</p> <p>(17) 積算内訳書の積算根拠、金額その他の内容について説明を求めた場合において、正当な理由なくこれを拒否し</p>
--



	3号) に基づく情報公開の対象とすることがある。
(11) 照 会	不明な点は、大分市総務部契約監理課に照会すること。 電話 097-537-5714

## 【別紙2】最低制限価格制度について

最低制限価格制度とは、入札により契約を締結しようとする場合において、予定価格（消費税及び地方消費税を含む。以下同じ。）の制限の範囲内で最低制限価格（消費税及び地方消費税を含む。以下同じ。）以上の価格をもって申込みをした者のうち最低の価格をもって申込みをした者を落札者とする制度のことである。

本市では、建設工事及び建設コンサルタント業務等の競争入札において、最低制限価格制度を導入しており、以下のとおり取り扱うこととする。

### 1. 対象案件

設計金額が130万円を超える建設工事及び50万円を超える建設コンサルタント業務等

### 2. 算定方法

#### (1) 建設工事

①、②により制限割合を算定後、③により最低制限価格を算定する。

① 制限割合の算定式について

$$\frac{(\text{直接工事費} \times 97\% + \text{共通仮設費} \times 90\% + \text{現場管理費} \times 90\% + \text{一般管理費等} \times 68\%) \times 1.10}{\text{設計額}}$$

(注1) 「直接工事費の97%の額」、「共通仮設費の90%の額」、「現場管理費の90%の額」、「一般管理費等の68%の額」のそれぞれの額に1円未満の端数がある場合はこれを切り捨てる。

上記の合算額に100分の110を乗じて得た額を設計額で除して得た割合（小数第3位を四捨五入し、第2位までとする）。

(注2) 共通仮設費積上分は、直接工事費に含む。

② 制限割合の適用範囲

$$7.5/10 \leq \text{制限割合} \leq 9.2/10$$

(注3) 制限割合の計算結果が、適用範囲の下限値(7.5/10)を下回る場合は7.5/10とし、上限値(9.2/10)を上回る場合は9.2/10とする。

③ 最低制限価格の算定式

$$\text{最低制限価格} = \text{予定価格} \times \text{制限割合}$$

(注4) 算出した額に1円未満の端数がある場合は、これを切り捨てる。

**(2) 建設コンサルタント業務等**

①、②により制限割合を算定後、③により最低制限価格を算定する。

① 制限割合の算定式について

$$\frac{(\text{項目ア} + \text{項目イ} + \text{項目ウ} + \text{項目エ}) \times 1.10}{\text{設計額}}$$

(注1) 下記別表の業種区分の欄に掲げる業務の種類ごとに、予定価格算出の基礎となった同表アからエまでに掲げるそれぞれの額 (1円未満の端数がある場合は、これを切り捨てる)の合算額に、100分の110を乗じて得た額を設計額で除して得た割合(小数第3位を四捨五入し、第2位までとする)とする。

② 制限割合の適用範囲

$$\text{別表の適用範囲の下限値} \leq \text{制限割合} \leq \text{別表の適用範囲の上限値}$$

(注2) 制限割合の計算結果が、下記別表の業種区分の欄に掲げる適用範囲の下限値を下回る場合は下限値、上限値を上回る場合は上限値とする。

③ 最低制限価格の算定式

$$\text{最低制限価格} = \text{予定価格} \times \text{制限割合}$$

(注3) 算出した額に1円未満の端数がある場合は、これを切り捨てる。

(別表) 業種区分ごとの制限割合の算定項目

業種区分	ア	イ	ウ	エ	適用範囲
測量業務	直接測量費の額	測量調査費の額	諸経費の50%の額	—	6/10 から 8.2/10
建築関係の建設コンサルタント業務	直接人件費の額	特別経費の額	技術料等経費の60%の額	諸経費の60%の額	6/10 から 8/10
土木関係の建設コンサルタント業務	直接人件費の額	直接経費の額	その他原価の90%の額	一般管理費等の50%の額	6/10 から 8.1/10
地質調査業務	直接調査費の額	間接調査費の90%の額	解析等調査業務費の80%の額	諸経費の50%の額	2/3 から 8.5/10
補償関係コンサルタント業務	直接人件費の額	直接経費の額	その他原価の90%の額	一般管理費等の50%の額	6/10 から 8.1/10

※ 詳細は「大分市建設工事及び建設コンサルタント業務等に係る最低制限価格制度要綱」を参照

## 【別紙3】大分市が発注する建設工事の指名競争入札参加者選定に関する要領（抜粋）

### 2 定義

この要領における用語の意義は、次のとおりとする。

- (1) 本庁所管区域とは、大分市域のうち支所の所管区域を除く区域をいう。
- (2) 支所の所管区域とは、大分市支所設置条例（昭和38年大分市条例第7号）に記載される支所の所管区域をいう。

- (3) ブロックとは、大分市域を分割したものであり、次のとおりとする。

- 1ブロック 本庁所管区域のうち 大分川以西の区域
- 2ブロック 本庁所管区域のうち 大分川以東の区域
- 3ブロック 植田支所所管区域
- 4ブロック 大南支所所管区域
- 5ブロック 野津原支所所管区域
- 6ブロック 鶴崎支所所管区域 及び 明野支所所管区域
- 7ブロック 大在支所所管区域 及び 坂ノ市支所所管区域
- 8ブロック 佐賀関支所所管区域

- (4) 指名選定エリアとは、大分市域を分割したものであり、次のとおりとする。

- 第Ⅰ指名選定エリア 1ブロック 及び 2ブロック
- 第Ⅱ指名選定エリア 3ブロック、4ブロック 及び 5ブロック
- 第Ⅲ指名選定エリア 6ブロック、7ブロック 及び 8ブロック

## 【別紙6】同日開札における落札制限について

本工事と同日に開札する、本工事を含む同業種（かつ同等級）の工事のうち、1件を落札した者は他の工事の落札者にはなれない。なお、この場合、同日落札制限の対象外とした工事は含まない。

ただし、この制限に起因して入札不調となるときは、制限を解除して**受注可能件数（※）**に応じた落札決定を行う。

### （※）受注可能件数の提出要領

受注可能件数は、競争入札参加資格申請書に添付する競争参加資格状況表（様式第2号（その1））に記載すること。

なお、受注可能件数は、同日に開札する同業種（かつ同等級）のすべての工事において同じ件数を記載すること。同じ件数となっていないものや件数の記載がないものについては、受注可能件数を1件とみなす。

### 《事例》

受注可能件数（A…2件、B…2件）

開札時刻	工事名	入札参加者	落札候補者	落札者 (受注件数)	考え方
9:30	工事①	A・B	A	A(1)	
9:45	工事②	A・B	A	B(1)	落札制限がAに適用され、落札者は次順位のB
10:00	工事③	A・B	A	A(2)	落札制限が両者に適用され、入札不調になるため、開札時に落札制限を解除
10:15	工事④	A・B	A	B(2)	落札制限を解除、Aは受注可能件数に達しているため、落札者は次順位のB